

# DAGG-3

ダイナミックAACゴール・グリッド説明書第3版



2009年にクラークとシュナイダーによって作成されたオリジナルのDAGGIに基づき、2023年にヴィッキー・クラーク (Vicki Clarke, MS, CCC-SLP 臨床実践能力認定-言語聴覚士) と共同でトビー・ダイナボックスが開発しました。Patricia Dowden, PhD (1999), Janice Light, PhD (1989, 2014)の研究を参考にしました。

著作権について ユーザーは、ユーザーから直接指導、治療、監督、評価、ケア、またはその他のサービスを受ける学生、患者、クライアント、またはその他の個人に対して使うことができる場合を除き、これらの資料をコピーまたは配布することはできません。それ以外の場合、Tobii Dynavoxの書面による同意なしに、これらの資料をコピーすることはできません。

# ダイナミックAACゴールグリッドの使い方

ダイナミックAACゴールグリッド(DAGG-3)は、言語聴覚士が支援チーム(例:教育者、家族、関連サービスなど)と協力して、拡大・代替コミュニケーション(AAC)を使うことができる個人の介入計画を立てる際に役立つツールです。DAGG-3は、個人の現在のコミュニケーション能力を明らかにします。この情報は、専門家が適切な目標を選択し、その進捗を追跡するための指針となります。DAGG-3には、萌芽期の学習者からより高度なコミュニケーターまで、すべての能力レベルが含まれます。

DAGG-3を使うことができるメリットは何ですか？

- 個人のコミュニケーション能力を評価(および再評価)する体系的な方法を提供します。
- コミュニケーションの自立に向けた長期的な計画を立てるためのツールを提供します。
- すべてのコミュニケーションコンピテンシー領域でAACをうまく使うことができるように促します。
- IEP(Individualized Educational Plan 米国個別教育プログラム) 目標作成をサポート

## DAGG-3入門

複雑なコミュニケーションが必要な人を含め、私たちは皆、効果的なコミュニケーションをとるために必要なスキルを学ばなければなりません。コミュニケーション能力レベルは、観察可能な行動を用いて、その人が現在どのようにコミュニケーションをとっているかを特定する方法を提供します。声を発しない人のコミュニケーション能力を正式に評価することは難しいため、必要な情報を収集するためには観察や面接に頼らざるを得ません。一旦、能力レベルが確認できれば、その人をより高いレベルのコミュニケーション能力へと導くために、適切な目標を選択することができます。

### ステップ 1

#### コミュニケーション能力レベルを見極める


各コミュニケーション能力レベルの説明を読み、個人の現在のスキルレベルを最もよく表しているものに印をつけます。その人が複数のレベルでスキルを発揮している場合は、チームとして、何から始めるのが最良かを決定してください。

ダイナミックAAC  
ゴール・グリッド-3に  
アクセスするには



QRコードをスキャン  
するか [qrco.de/  
beYnX0](https://qrco.de/beYnX0)

## ステップ:1 コミュニケーション能力レベルの確認 続き


萌芽期のコミュニケーター(会話者)		萌芽期からの移行期のコミュニケーター(会話者)	
定義	コミュニケーション萌芽期の子どもは、シンボル(写真や線画)が、物事や場所、考えなどを表していることをあまり理解していないか、まったく理解しておらず、一貫したコミュニケーション方法をまだ持っていない可能性がある。	定義	萌芽期からの移行期にあるコミュニケーターは、やる気にさせる活動や好みの人とのやりとりの中で、目的を持ったコミュニケーションを示し始めている。
コミュニケーションの特徴には以下のようなものがある	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 本人がどの程度理解しているかを他人が判断するのは困難</li> <li>■ 表情、ボディランゲージ、ジェスチャー、行動(社会的に適切なもの、困難なものも含めて)を使って最もうまくコミュニケーションをとることができるかもしれない</li> <li>■ コミュニケーションを成功させるには、コミュニケーション・パートナーの助けが必要</li> <li>■ 受容(例:笑顔)または拒絶(例:背を向ける)を示すかもしれないが、他の はい/いいえの質問には確実に答えられない</li> <li>■ 親しい人ややる気が出る活動には反応する</li> <li>■ 全てのコミュニケーションに一貫性が無い</li> </ul>	コミュニケーションの特徴には以下のようなものがある	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 慣れ親しんだ日常生活や活動の中で、簡単に従う</li> <li>■ やる気を起こさせるものやよく使われるものの具体的なシンボルを理解する</li> <li>■ 明確で簡単なシンボル(物、写真、絵のシンボルを含む)を、身近でやる気を起こさせるような状況で1つずつ使いはじめる</li> <li>■ 萌芽期の読み書き能力の発達がある(本への興味など)</li> <li>■ 特に特定の状況において、社会的やりとりに何らかの関心を示す</li> <li>■ コミュニケーション・パートナーのサポートに積極的に応えること</li> </ul>
 注:これらの行動は不随意的に起こりますが、AACによる介入ができれば、意図的なコミュニケーション・メッセージにすることができます。		事例紹介	<p>ロリーナは以前、欲しいおもちゃが手に入らないと泣いて足を蹴っていました。最近では、両親がロリーナと遊んであげると、ロリーナは部屋の中で自分が遊びたいものを指さすようになりました。</p> <p>ロリーナは、慣れ親しんだ遊びの日課の中で、より一貫した指さしをするようになってきています。また、ロリーナは、やる気を起こさせるおもちゃで遊ぶときに、(コミュニケーション・パートナーのサポートを得て)「もっと」や「全部できた」のシンボルを使います。</p>
事例紹介	<p>食事の時、サムの母親は、サムが食べ終わると首をかじげたり、まだお腹が空いていると泣いたりすることが多いことに気づきます。サムは好きな食べ物には手を伸ばし、食べたくない食べ物は押しのけます。</p> <p>サムの母親は、サムの食べ物の選択の際にシンボルを見せるようにし始め、母親が好きな食べ物のシンボルを示すと、サムは微笑みます。サムはシンボルに手を伸ばしますが、いつも自分が選んでいることに注意を払っているわけではありません。サムの母親は、サムが興味を示し始めている車の絵本が家にあることを指摘しています。</p>		

## ステップ:1 コミュニケーション能力レベルの確認 続き

文脈依存期のコミュニケーション能力レベル(会話者)	
定義	文脈依存型コミュニケーション能力レベルは、特定の文脈の中で、親しい人と簡単なコミュニケーションをとることで、基本的なニーズや欲求を満たすことができる。
コミュニケーションの特徴には以下のようなものがある	<ul style="list-style-type: none"> <li>ローテクまたはハイテク機器を効果的に使うことができるが、特定の状況でのみ使用する</li> <li>具体的なシンボルを使い(例:クッキー、犬、靴下)、また抽象的なシンボル(例:好き、助けて、違う)を理解し使い始める</li> <li>一緒に読む事(Shared reading) やサポート付きの文字を書く活動、キーボードの探索などを通して、読み書きのスキルを伸ばしている</li> <li>親しい相手との会話や 社会的やりとりを始める</li> <li>身近なコミュニケーション・パートナーの日常的な質問に答える</li> <li>コミュニケーション・パートナーのサポートを受けながら、理解できない時に簡単な方略(例:繰り返す事)を使ってコミュニケーションを修復する</li> <li>2つ以上のシンボルを組み合わせてメッセージを作ることを始める</li> </ul>
事例紹介	<p>カルヴィンは、言語療法を受けているとき、家でお母さんと一緒にいるとき、そして教室でコミュニケーション・デバイスを使うことができます。カルヴィンは、自分の好きなコミュニケーションページで新しいシンボルを学んでいます。</p> <p>一緒に読む(Shared reading)活動や、自分の名前に含まれる文字名や音の認識、好きなものを認識するなど、読み書きのスキルに取り組んでいます。カルヴィンは、あらかじめ保存されたメッセージを使うことができ、シンボルを組み合わせて新しいメッセージを作り始めています。</p> <p>カルヴィンは、あまり親しみのない聞き手や新しい状況で、デバイスを使うことが難しいようです。カルヴィンは、サッカーの試合を見に行くのは好きですが、同世代の子どもたちとのやりとりにとっても苦労しています。</p>

自立への移行期のコミュニケーション能力レベル(会話者)	
定義	自立への移行期のコミュニケーション能力レベルは、単語、あらかじめプログラムされたフレーズ、基本的なキーボードスキルを組み合わせ、新しいメッセージを作成し、一貫したコミュニケーション能力を発揮する。
コミュニケーションの特徴には以下のようなものがある	<ul style="list-style-type: none"> <li>よく知っている相手とも、知らない相手とも、幅広い話題についてコミュニケーションをとる</li> <li>常に2つ以上のシンボルを組み合わせて複雑なメッセージを作る</li> <li>誤解されたときにコミュニケーションを修復するためのさまざまな方略を用いる</li> <li>以下の識字能力を示す: <ul style="list-style-type: none"> <li>文字の音に対する認識の向上</li> <li>追加されたサイトワード(見ただけで認識できる単語)</li> <li>簡単な単語のつづり</li> <li>適切な語尾の追加(過去形"-ed"、複数形"-s "や"-ing "など)</li> <li>話し言葉と活字のつながりをしっかり理解する</li> </ul> </li> <li>シンボルサポートによる単語予測の利用開始</li> </ul>
事例紹介	<p>デドラは数年前から意思伝達装置を使っています。彼女は誕生日パーティーに行く予定ですが、そこにいるすべての人を知りません。デドラの姉は、彼女がパーティーで使うことができるメッセージを探し、練習するのを手伝います。</p> <p>デドラは、これらのメッセージと、自分のよく使う基本的な言葉の組み合わせを使ってコミュニケーションをとります。デドラは、コミュニケーション・パートナーの助けを借りながら、必要に応じて修復戦略を使います。パーティーに参加している間、デドラは何人かの新しい人と出会い、コミュニケーションをとります。自己紹介をし、情報を共有し、相手に焦点を当てた質問をし、いくつかの会話に参加することができます。</p>

## ステップ:1 コミュニケーション能力レベルの確認 続 き

自立したコミュニケーター(会話者)	
定義	自立したコミュニケーターは、年齢相応の期待に基づき、どんな話題でも誰とでもコミュニケーションがとれるが、同年齢の人たちよりは遅いかもしれない。
コミュニケーションの特徴には以下のようなものがある	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 新しいメッセージとあらかじめ保存されているメッセージを組み合わせて使う</li><li>■ 基本的な語彙を使って複雑なメッセージを構成する</li><li>■ 不慣れな出来事において、不慣れな相手とうまくコミュニケーションをとる</li><li>■ 社会的やりとりのスキル、環境、活動は同年齢の人たちと同様である</li><li>■ 同年齢の人たちと同じように、コミュニケーションや指示を理解する</li><li>■ 年齢に応じて、希望するコンテンツ(個人的なストーリーなど)を機器にプログラムすることができる</li><li>■ 読み書き能力は同年齢の人たちと同じ</li></ul>
 注:このレベルの人たちは、語彙をすばやく見つけるために、まだシンボルを使うかもしれませんが、独自のメッセージを作成するときにはキーボードをもっと頻繁に使うようになります。	
事例紹介	<p>ロドリゴは、基本的な単語、あらかじめ保存されたメッセージ、単語予測機能付きのキーボードが混在したコミュニケーション・デバイスを使います。彼は授業に出席し、仲間や教師とうまくコミュニケーションをとっています。</p> <p>ロドリゴは年齢に応じた会話に参加し、技術的な問題を解決したり、必要に応じて効率化する機能を使います。ロドリゴは、簡単に新しいメッセージを作成し、新しいジョークをデバイスにプログラムしてクラスメートと共有するのが大好きです。</p>

## ステップ 2

### 各コンピテンシー分野の目標を見直し、すでに達成された目標(GM)に印を付け、重点的に取り組むべき潜在力のある分野を特定する

各コミュニケーション・コンピテンシーの出発点を作成します。ステップ1で特定したコミュニケーション能力のレベルに合った目標を見つけます。

各コンピテンシー分野で異なる能力レベルを示す個人もいるため、特定のコンピテンシー分野で能力レベルを上げたり下げたりする必要があるかもしれません。

すでに観察され、達成された目標(GM)に印をつけ、どのような目標を設定すればよいかを判断します。

可能な限りに高いレベルのコミュニケーションの自立を達成するためには、4つのコンピテンシーすべてにわたる目標に取り組むことが不可欠である。4つのコミュニケーション・コンピテンシーとは以下の通りである(Light, 1989):

**言語**: 言語で表現し言語を理解する。語彙を学び、使うこと。読み、書き、つづり。

**操作**: 選択したアクセス方法(例: タッチ、スキャン、視線など)を使って、AACシステムを保守し、ナビゲート(移動したい個所に行く)し、操作する能力。

**社会性**: 社会的に適切な方法で効果的にコミュニケーションをとる。

**方略**: AACの機能的制限を克服または最小化するための戦略を活用すること(例: コミュニケーション中断を防ぎまたは修復し、改善する技術を評価する)。

#### ▶ 目標を選択する際に考慮する事:

- 各コンピテンシー分野で少なくとも1つの目標を選択する。
- 優先順位を決める際には、本人やその家族にも参加してもらう。
- 長期的な目標に集中する。あなたが達成しようとしている実用上の成果を決定し、各短期目標がこの長期目標に沿ったものであることを確認する。

コンピテンシー	能力レベル				
	萌芽期	萌芽期からの移行期	文脈依存	自立期への移行期	自立期
言語			✓		
操作				✓	
社会性				✓	
方略			✓		

#### 事例の紹介:

メルヴィンは非常に社交的な46歳の男性で、四肢麻痺の脳性麻痺があります。彼は視線とスキャンのユーザーです。彼の各能力レベルは上記の表の通り:

言語の目標と方略の目標は、他のコンピテンシー分野よりレベルが低いため、より重視される。

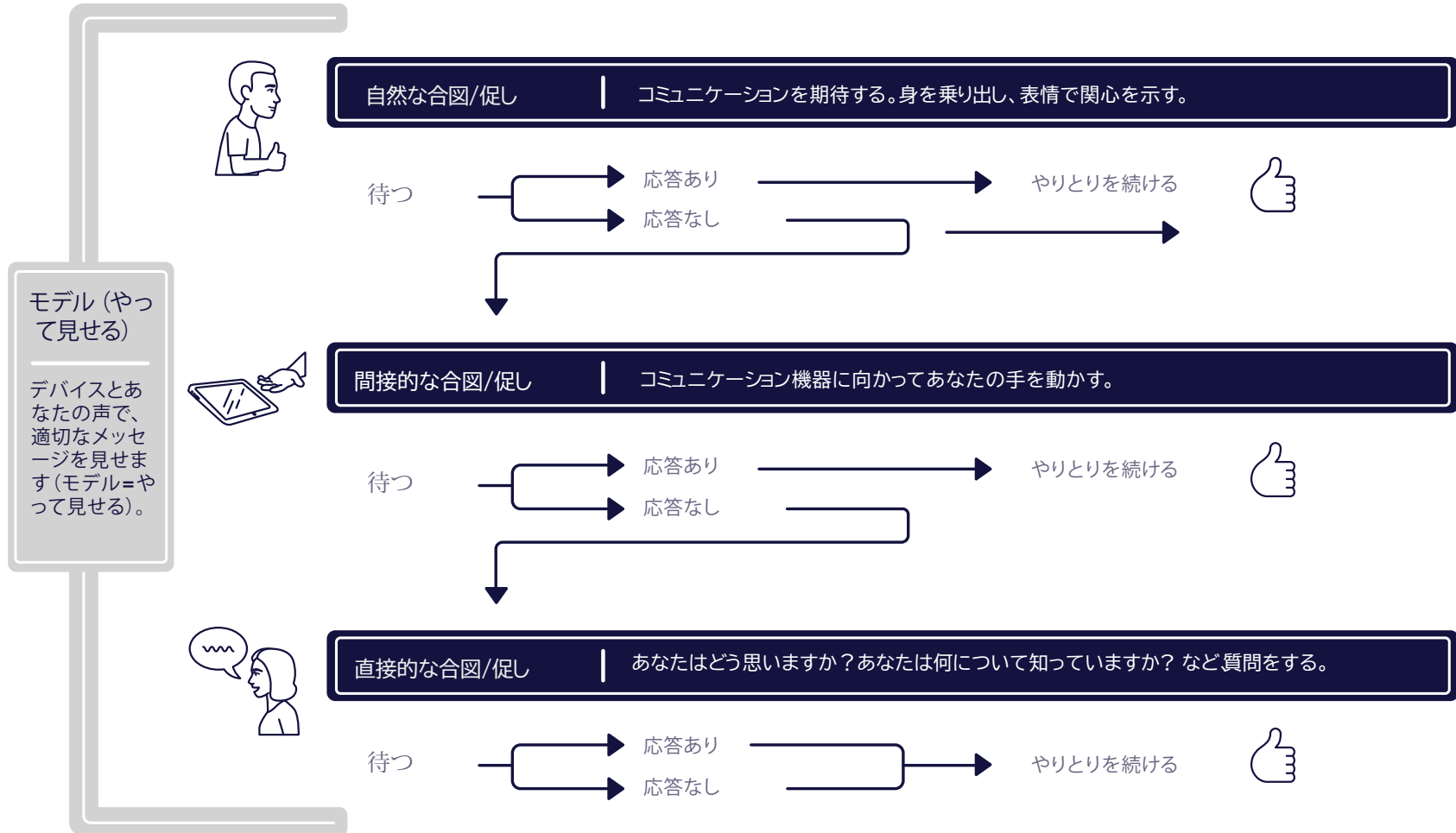
### ステップ 3

各目標に必要なサポートのレベルを決定する。

合図/促しのチェーンを使って適切な支援を提供し、できる限り自立を促します。また、進歩の度合いを測ったり、自立をよりよく支援するためのコミュニケーション・パートナーに助言するのも役立ちます。目標は、本人が成功するために最小限のサポートでコミュニケーションの機会に参加できるように指導する事です。

## 合図/促しのチェーン Chain of cue

あらゆる環境で自立を促すために、このツールを使って見ましょう。



## ステップ 4

### 実施方法と指導テクニックを明確にする

AAC(拡大代替コミュニケーションデバイス)は、個人に日常の活動に有意義な形で関わり参加できる機会を提供します。AACの導入を成功させるための第一歩は、優れたコミュニケーション・パートナーになることです。コミュニケーション・パートナー・スキルとは、コミュニケーター(コミュニケーションする人)がより効果的にコミュニケーションできるようにするためのテクニックです。

#### 機会を認識する:

1日のうちで、コミュニケーションスキルを学び、練習できる時間を特定します。例えば、コミュニケーション・ボードやコミュニケーション・デバイスを使って、食べたいおやつ、遊びたいゲーム、やりたい仕事(今日は何の日か知らせる係、先頭に並ぶ係、朝の会の司会など)を伝えることができるようにします。一日を通して、思いがけない機会を探すことも忘れずに。

#### コミュニケーションを試みることに意味を持たせる:

コミュニケーションを学ぶときに失敗ということはありません。特に本人がAACシステムに関心を示している時は、コミュニケーションを取ろうとするすべての試みに応えることが重要です。例えば、“ほしい”という言葉に焦点をあてて本を読んでいるのに、本人は”もっと”という言葉にタッチしたとします。その時は「あー、あなたはもっと欲しいのね」と言って応じる事も出来ます。

学習者が全くやりとりをしなかったり、興味を示さなかったりしても、話しながらデバイス上のキーワードやメッセージに触れ、モデル(やって見せる)を提供し続けます。コミュニケーションややりとり(インタラクション)には、表情やボディランゲージも含まれることを忘れないでください。

#### ポジティブなコミュニケーションの環境を作る:

ポジティブ(肯定的)なコミュニケーション環境とは、あらゆるタイプのコミュニケーションが促され、必要に応じて支援が提供される場所や状況のことです。自然で協力的な関係の中で、前向きな結果が得られることに重点を置きます。

- 学習者の力を信じる “あなたならできる”
- テストするのではなく、使うことに集中する。”本を探して “と言う代わりに読書の時間だよ。どんな本を読もうか？
- あらゆるコミュニケーション方法に対応する。学習者が 微笑みかけたら、パートナーは、「あら、こんにちは！」
- 長く待つ。コミュニケーション・パートナーは、単語がある場所を教える手助けをする前に5秒数える

#### モデル(やって見せる):

研究によると、AACの使い方を教えるには、あなた自身がAACを使うことが一番良い方法です。私たちはこれをモデリングと呼んでいます。その人と話しながら、自分でAACに触れ、使ってみせます。

- モデリングとは、コミュニケーションの方法を示すこと。
- 真似させることが目的ではない。
- あなたが言った全ての言葉ではなく、キーワードをモデル化する。
- 上記の文に合う語彙を探しながら、モデル化する。
- 間違ってもOK。どのように間違いを修正するかのもデリングのチャンスを与えてくれる。
- モデリングはクイズやテストではない。
- たとえ反応がなくても、モデリングを続ける。それは成功していないことを示しているわけではない。

#### 成功するとは:

成功する(うまくいく)とは、学習者があなたが期待している事を、期待している時に、あなたか期待しているようにコミュニケーションできる事だけではありません。成功には以下が含まれます:

- やりとりーインタラクションへの関心が高まる
- コミュニケーションを始める
- 意図的であろうとなかろうと、より多くの語彙を使う。探索し、無作為でも選択することは、成功の初めの現れ
- より長いやりとりーインタラクション
- やりとりをより楽しむようになる
- より自立したコミュニケーションをする



## ステップ 5

### 実施計画・目標進捗報告書の記入

進捗報告書をいつ完成させるか、チームで決める。

- 期間を設定する(例:9月1日から10月31日まで)
- 特定された期間のリストに、ターゲットとなる目標をコピーする
- 進捗報告書の日付を記入
- 各目標の進捗状況をまとめる。現在の能力レベル、パーセンタイル、促し(合図)レベルをマークする

### 実施計画と目標の進捗報告書のサンプル

名前: サム

期間: 9月1日から10月31日まで

日付: 11月5日

目標(AAC目標グリッドより)	活動内容と必要な材料	コンピテンシー分野	促し(合図)のレベル				基準に対する%または発生回数	慣れているまたは慣れていない課題やパートナー
			N	I	D	M		
あらかじめ選んだ話題やテーマについて書くために、最初のフレーズを与えられて文章を完成させることができる	穴埋め文章作成	言語		X			70%	グループ活動で慣れている。
日常活動の中で、意図的に、一般的に興味をそそる物や人の名前を選ぶ	モンスター・トラック・ラリーのビデオ・ネーミング	社会性	X				75%	慣れている
一日中、ジェスチャーや視線、AACの語彙を使って、AACをあちこちに移動させたり、他の人に指示したりして、AACを近くに置き、使いやすい位置に保つ	サムは学校生活を通して、さまざまな教室で装置を貢って任持 使っていた。	操作		X			70%	慣れていない
社会的なやりとりや 日常活動の中で、コミュニケーション・システムの特定のページにある話題に関するメッセージを使って短いやり取りを何度も行う (社会的なつながりや友情の形成)	与えられたページから、サムはパ	社会性		X			65%	慣れている
意図したメッセージが誤解されたり、無視されたり、システムが作動しなかったり、読み上げなかったりした場合に、メッセージを繰り返す	お気に入りのクラスメートとロールプレイをする	方略			X		60%	慣れている

## ステップ 6

### 最初のページに進捗状況の概要を記入する

個人の進捗状況を確認するときにはいつでも(例:毎月、隔週)、最初のページの「進捗状況サマリー」に記入する。

コンピテンシーレベルのパーセンテージを記入するには、その特定分野のゴール総数に対して、その1つの能力レベルのゴール数と、達成した特定のコンピテンシーレベル(例:萌芽期言語の目標)を記入する。

例えば、「操作の萌芽期からの移行期」の4つの目標のうち2つを達成した場合、そのコンピテンシーの「概要表-サマリーチャート」には50%と記入します。  
(例:タッチユーザーの視線アクセス目標)はカウントしないでください。空欄を利用して個人別の目標を追加した場合は、その目標も計算に使うことができます。

適切でない目標

## DAGG-3 参考文献

Clarke, V. & Tobii Dynavox (2014). DAGG2: Dynamic AAC Goals Grid and Planning Guide 2nd edition.

Dowden, P.A. & Cook, A. M. (2002). Selection Techniques for Individuals with Motor Impairments. (運動障害のある人のための選定テクニック)In J. Reichle, D. Beukelman & J. Light (Eds.). Implementing an Augmentative Communication System(拡張コミュニケーションシステムの導入): Exemplary Strategies for Beginning Communicators. (初級コミュニケーターのための模範的戦略)Baltimore, MD. Brookes P. 395-432

Light, J. (1989). (拡張代替コミュニケーションシステムを使用する個人のためのコミュニケーション・コンピテンスの定義に向けて) Augmentative and Alternative Communication. 5, (2):137-144

Light, J., & McNaughton, D. (2014). (拡大代替コミュニケーションを必要とする人のコミュニケーション・コンピテンス: コミュニケーションの新時代のための新しい定義?)AAC: Augmentative and Alternative Communication, 30(1)

Schneider, H., & Clarke, V. (2009). (初代のDAGG。ダイナミックAACゴール/グリッドと計画ガイド: 能力レベルを問わないコンピテンスへの取り組み)

## よくある質問

### やる気を起こさせるような活動を見つけるには？

- Tobii Dynavox Interest Inventory (トビー・ダイナボックス・興味リスト)は、コミュニケーションをサポートする際に、ご本人や介助者がモチベーションの上がる話題や興味のあることを見つけるためのチェックリストです。

### 困難な目標に取り組むには？

- 本人をサポートするために提供する合図/促しのレベルを上げる。
- 話題や活動を変えてみて、最もやる気の出る選択肢を見つける。
- セラピーのセッション以外でも目標を目指すように介助者に勧める
- 挫折しそうになったら、先に進み、また後で目標に立ち返る。
- 長期的な目標に集中し、短期的な目標は長期的な目標に沿った形で修正する。

### 目標が達成されたことを知るには？次に進んでいいのはいつですか？

- 各目標を80%の精度で達成しなければ次の目標に進めないわけではありません。一貫して目標を達成できなかつたり、合図がなくても、次の目標に進む準備ができている場合もあります。臨床的判断で次に進むタイミングは決めます。

### 本人が正しい対象を選択しなかつたり、まったく何もしなかつた場合はどうしますか？

- モデリングを続け、本人が反応する時間を増やす。
- 本人にとってもっとやる気の出る活動に変える。
- より多くのサポートを提供するために、合図/促しのチェーンを利用する。
- 一歩下がって、一つ前の目標を試してみる。

### DAGG-3は規格化されていますか？

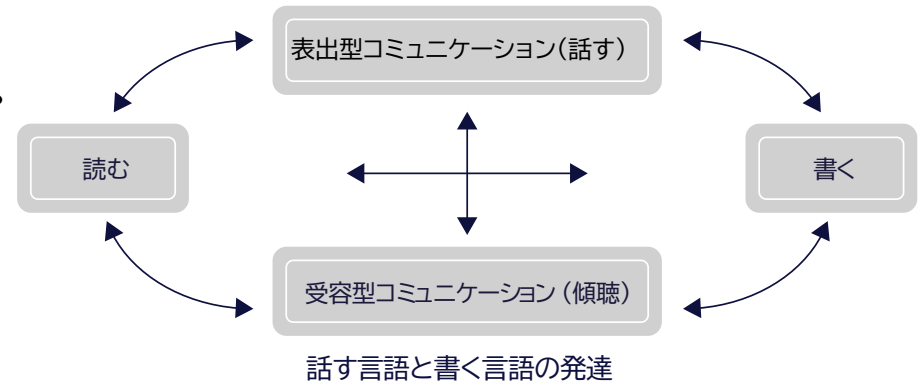
- DAGG-3の目的は、個人のパフォーマンスを評価することであり、そのパフォーマンスを他の人と比較することではありません。そのため、その人についての具体的な情報を得ることができ、その人に合った介入計画を立てることができるのです。DAGG-3は個人の現在のコミュニケーション能力レベル(Patricia Dowden, 2002)をコミュニケーション・コンピテンシー(Janice Light, 1992)にわたって測定します。さらに、可能な限り自立してコミュニケーションを成功させるために、将来のコミュニケーション目標を計画するのに役立ちます。

### 言語と読み書き能力の関係とは？

言語と識字の専門家は、言語と識字の相互強化が重要であるという点で一致しています。識字能力が向上すれば言語能力も向上し、その逆もまた然りです。DAGG-3を通して、識字能力と言語能力は言語能力の中で結びついています。識字能力はすべての学習者にとって重要ですが、特にAACを使うことができる人にとって重要です。読み書きができることで、より新しいメッセージの作成が可能になり、より自立したコミュニケーションができるようになります、より個人に合った会話ができるようになります。

言語と識字能力の違いの1つは、私たちの脳は、言語と同じように識字能力のために配線されていないということです。指導者、養育者、教師として、識字能力の目標、特に識字能力を身につける前の幼児期の目標に向かって努力することが私たちの仕事です。識字を目指すのに、幼すぎるということも、関わりすぎるということもありません。

識字能力に焦点を当てた目標に取り組むことは、あらゆる能力レベルの個人にとって有益であり、言語能力全体を向上させます。この図は、4つのコミュニケーション・モード(やり方)がどのように共に発達し、互いの発達を助け合うかを示しています。



(Koppenhaver, Coleman, Kalman & Yoder, 1991 Adapted from Teale & Sulaby, 1989)

▶ 識字と言語についてもっと学びたい方は、Core First Learningプログラムをお試しください(英語版)。Core First Learningは、言語と読み書きのためのコア・ワードを対象としたプログラムです。コア・ワードを教える4つの主要要素は、「見つける」、「使う」、「読む」、「綴り始める」です。